

# Volunteer Seminar Journal Vol.11

2016 Spring  
ボランティアセミナージャーナル

## 学生ボランティア支援室 今後のスケジュール

### ■ 震災ボランティア スタートアップフェア

日程：4月8日(金)、4月11日(月)、4月14日(木)、4月20日(水)、  
4月21日(木)、4月26日(火)  
会場：川内北キャンパスC棟(教室は下記の通り)  
教室・時間：8日(C301、17:00～19:00)、11日・14日・21日・26日  
(C201、16:30～18:30)、20日(文フェス、C102、  
13:00～17:00)

学内・学外のボランティア団体が一堂に集まる「スタートアップフェア」。震災の風化が危惧される今だからこそ、ボランティアの力が必要とされています。また学習支援・国際交流など震災以外の活動も紹介しています。予約不要、途中入場・退室自由です。

### ■ ボランティア支援室 学生スタッフ説明会

会場：川内北キャンパスC棟(教室は下記の通り)  
教室・日時：4月15日(金)16:30～18:00、C201  
4月27日(水)18:00～19:30、C106  
5月6日(金)16:30～18:00、C106

学生ボランティア支援室の主催するボランティアツアーや各種ボランティア支援のイベント等の企画運営に参加する学生スタッフ(SCRUM)のメンバーになってみませんか?  
「ボランティアを支援するボランティア」であるSCRUMの活動を紹介します。

### ■ 4月～5月のボランティアツアー等

下記のツアー参加者を募集します。スタートアップフェアでもツアー内容は紹介します。先着順にべ切ますので、お申し込みはお早目をお願いいたします。

#### 仙台市若林区被災地スタディツアー

4/9(土)

- 9日9:00東北大学川内北キャンパス集合、同日18:00同所にて解散
- 仙台市内で甚大な被害をこうむった仙台市若林区の被災状況を視察し、地元住民やボランティア団体、復興住宅自治会長等から被災状況や復興の課題についてお話を聞きます。
- 費用：無料、定員：20名、募集べ切：4月8日(金)

#### 福島スタディツアー

4/10(日)

- 10日8:00東北大学川内北キャンパス集合、同日20:00同所にて解散
- 福島第2原発が立地する富岡町は桜が有名です。今は全町民が避難しており、2017(平成29)年4月から帰還開始となります。この富岡町を視察し、町民の方々の今のお話を聞きます。
- 費用：無料、定員：20名、募集べ切：4月8日(金)

#### 陸前高田ボランティアツアー

4/16(土)～17(日)および4/29(金祝)～5/1(日)

- 出発日の8:30川内北キャンパス集合、解散日の21:00同所にて解散
- 「奇跡の一本松」で知られる岩手県陸前高田市。なお多くの方々が仮設住宅で生活されています。その復興の現状を視察し、また足湯や手芸などを通して、被災した方々を支援します。
- 費用：4/16～17宿泊費等2,000円。4/29～5/1宿泊費等3,000円(予定)  
※食費は別途必要。
- 定員：どちらも20名、募集べ切：【4/16～】4月14日(木)、【4/29～】4月27日(水)

#### 石巻市ボランティアツアー

4/23(土)

- 23日8:00川内北キャンパス集合、19:00同所にて解散
- 東日本大震災で最も大きな被害を受けた自治体のひとつ石巻市。まだまだ仮設住宅の解消には時間がかかります。ご当地グルメの「石巻やきそば」作りを通して仮設住宅の方々と交流します。
- 費用：無料。ただし焼きそば代(1,000円以内)は各自負担
- 定員：15名、募集べ切：4月21日(木)

#### 福島ボランティアツアー

5/3(火)～5(木)

- 3日8:30川内北キャンパス集合、5日20:00同所にて解散
- 福島県いわき市を訪問し、原発事故で避難されている方々のいる仮設住宅で清掃ボランティア活動等を行います。また津波で大きな被害のあった薄磯地区の神社のお祭りを手伝います。
- 費用：宿泊費として2,000円 ※食費は別途必要、定員：20名、募集べ切：5月1日(日)

#### 石巻市雄勝町ボランティアツアー

5/7(土)

- 7日8:00川内北キャンパス集合、19:00同所にて解散
- 津波により中心部が壊滅的な打撃を受け、今後の復興も困難な石巻市雄勝町。その雄勝町の被災と復興の状況を視察し、また現地の山林・浜等でボランティア活動を行います。
- 費用：無料。※食費は別途必要、定員：20名、募集べ切：5月5日(木)

### ツアーへのお申し込み

右のQRコードから申込用のフォーム(<http://goo.gl/forms/uzSNaJKJbw>)が読み込めます。

読み込めない方は氏名、参加希望ツアー名を明記しtour.info.tohoku@gmail.comまでメールをお送り下さい。いずれのツアーも定員に達し次第、べ切に関わらず、募集を終了します。



<b>P2</b> ●東日本大震災とボランティア活動	<b>P3</b> ●東北大学による学生ボランティア支援	<b>P4～5</b> ●SCRUMメンバー紹介	<b>P6～</b> ●被災3県(岩手県・宮城県・福島県)の現状と学生ボランティアの取り組み
<b>P14～</b> ●学生ボランティア団体の紹介	<b>P16～</b> ●学外ボランティア団体の紹介	<b>P19</b> ●テーマ別ボランティア団体一覧	<b>P20</b> ●今後のスケジュール



## 東日本大震災とボランティア活動

### 社会を学ぶきっかけとしての「ボランティア」

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地は「人口減少社会」の下での復興という困難に直面しています。また「少子高齢化」「過疎」「地域の基幹産業の衰退」等の構造的課題や、原発事故と除染の課題、復興制度の課題、住民と行政が協力して復興を進めることの難しさなど、被災地のみならず日本社会全体、あるいは国際社会全体で取り組むべき複雑な課題を浮き彫りにしました。

ボランティアとしてこれらの被災地の課題に取り組むことで、社会性と主体的な問題解決能力を身につけた、国際的に活躍できるグローバル人材として成長するきっかけになります。また東北大学で学ぶ専門的な知識がどのように被災地や社会で活用されるか知ることは、自分のキャリアを考える上で、大きな意味を持ちます。



### 5年経った被災地



東日本大震災から5年が経ちましたが、被災地ではまだ多くの方が仮設住宅等での生活を余儀なくされています。復興住宅への入居が進みつつありますが、一方で高台やかさ上げ地での自宅再建はまだ先になる見通しです。さらには生活再建の目途が立たず、今後の仮設住宅の統廃合などに不安を抱えている方も少なからずおられます。また復興住宅では新しい環境への適応が課題となります。従前地での生活再建でも地域の変化と人口減少により前と同じ生活はできません。岩手県・宮城県・福島県の3県の現状については6ページ以降にまとめています。一方、ボランティアは減り続け、「震災の風化」が叫ばれます。まだまだ様々な分野で皆さんの力が必要とされています。

### 課外・ボランティア活動支援センターと東日本大震災学生ボランティア支援室

発災当初から、多くの東北大学生が積極的に被災地でのボランティア活動を行いました。そして5年経った現在も、仮設住宅や復興住宅での被災者の支援や、地域復興のための農業・漁業支援等の活動は続いています。こうした学生のボランティア活動を総合的に支援するため、東北大学では2011年6月より「東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室」を設置しています。

また2014年4月より高度教養教育・学生支援機構中の業務センターとして「課外・ボランティア活動支援センター」が設置され、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、正課・課外で社会貢献型の体験学習を実施しています。さらに、他大学生や海外の学生と、震災やボランティアをテーマとした交流も盛んです。具体的には、次頁のような取り組みを行っています。



## 東北大学による学生ボランティア支援

東北大学では以下の取り組みを通して、東日本大震災に関連する学生ボランティア活動を積極的に支援しています。

### スタートアップフェア

学内・学外のボランティア団体による合同説明会「学生ボランティア・スタートアップフェア」を開催します。4月は6日間開催します(日程・会場は20頁を参照下さい)。



### 被災地でのスタディツアー・ボランティアツアーの実施

被災地の現状と課題を学ぶ「スタディツアー」や、実際のボランティア活動を行う「ボランティアツアー」を実施します。2015(平成27)年度は55回のツアーを岩手県・宮城県・福島県の被災地等で実施し、のべ600人以上の学生が参加しています。今年度も同様に実施していきます。これらのツアーに定期的に参加して、被災地に貢献する学生も多数います。本誌20ページで、4月～5月はじめに開催するツアーを紹介していますので、ぜひご参加下さい。

### 正課授業や「グローバルリーダー育成プログラム」との連携

課外・ボランティア活動支援センターでは、基礎ゼミ・展開ゼミ「ボランティア活動と地域課題」(2016年度前期は月曜日3・4限、後期は木曜日5限)と総合科目「震災復興とボランティア」(2016年度前期の火曜日5限)を開講します。実際のボランティア活動への参加が授業の一環に組み込まれています。

また、被災地でのボランティア活動は、「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)」のポイントとしても認定されます。詳しくはTGLのサイト(<http://tgl.tohoku.ac.jp/>)をご覧ください。

### 情報提供・相談活動

本学学生へのボランティア活動についての情報提供のため本誌・ボランティアセミナージャーナルを定期的に発行しています。またWebサイトやメール配信サービスでも情報提供を行っています。またボランティア活動に関する相談について、専門のスタッフが対応いたします。川内北キャンパスの教育・学生総合支援センター東棟1階にある「ボランティア活動支援室」までお越し下さい。

### 被災地や東北を知ってもらうイベントの開催

被災地でのボランティア活動に関する研修会、報告会なども開催します。また国内の他大学の学生や高校生との交流会・ツアーも実施します。国際交流として東北大学の留学生と被災地の状況を学ぶツアーや、海外の大学生との交流会なども実施しています。



### ボランティア支援室・学生スタッフ(SCRUM)募集

上記のツアーや、各種イベント等の大学主催プログラムは東日本大震災学生ボランティア支援室の「学生スタッフ(愛称: SCRUM)」が参加して企画・運営されています。各団体や被災地の状況を広く学びながら、被災地と学生双方のニーズを踏まえた企画を皆さん自身で実施してみませんか? SCRUMについて詳しくは、次のページをご覧ください!

学生ボランティア支援に関するホームページ

- 東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター [http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page\\_id=7395](http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395)
- 東日本大震災に関する学生ボランティア支援 <http://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/volunteer/01/volunteer0101/>
- 東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室 <https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>

SCRUM  
メンバー紹介

SCRUMってなに？

SCRUMとは、東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室の学生スタッフの愛称です。私たちは、2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県・宮城県・福島県で活動しています。震災から5年が経過しましたが、まだまだ継続的な支援が必要です。現在は被災地と学生を繋ぐことを目的とし、主に現地の仮設住宅で支援を行うボランティアツアーと、震災の被害や被災地の現状を知るスタディツアーの企画・運営を行っています。他にも、他団体・他大学の学生と合同で企画をしたり、海外の学生や留学生と交流したり、東北外で行われるセミナー・シンポジウムに参加したりします。「被災地の方々と学生とで肩を組んで、復興へ向かっていきたい」という想いから、「SCRUM」という愛称を決めました。

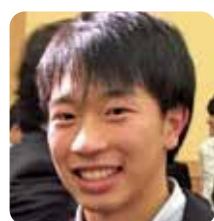


代表挨拶

理学部2年 杉浦 遼星



代表の杉浦です。SCRUMの特徴は、多くの人と出会えることと、被災地と学生をコーディネートするという「一歩進んだ活動」もできることだと思っています。とはいっても、活動頻度は人それぞれで、他のサークルと兼ねたい人も、週一回のみ参加の人も大歓迎です。なんとなくボランティアがしたいあなた、いろんな人と出会いたいあなた、どんどん成長していきたいあなた、ぜひSCRUMと一緒に活動しましょう！



副代表

理学部3年  
金子 拓

たくさんの人との関わりを大事にして、ネットワークをどんどん広げていきたいです！活動の中心である2年生のサポートをしつつ、関わりの深い地域でもっと継続的に活動していきます！



副代表

理学部2年  
佐藤 菜々

被災された方々が楽しい日々を送れるよう、継続的に被災地を訪れ、現地の方々も学生の皆さんも一緒に楽しい時間を共有していきたいです。



宮城部門長

文学部3年  
名古屋 円花

後輩の活躍を見守りながら、現在活動している石巻市雄勝町にさらに密着していきたいです。背後から応援する存在になりたいと思います。



福島部門長

教育学部2年  
中澤 恵

人が好きなので、今年も被災地でたくさんの人とお話するのが楽しみです。そして、ツアーで東北大生の皆さんとお会いするのも楽しみにしています。皆さんぜひ、SCRUMのツアーでお会いしましょう！



教育学部2年  
川村 昇

「ボランティアに興味はあるけれど、ハードル高いな」。当初はそう感じていましたが、今では一歩踏み出してよかったと思います。これからは被災地の情報発信に取り組んでいこうと思っています。



経済学部2年  
新井 智順

自分は去年10月2セメからSCRUMのメンバーとして活動しています。ボランティアの企画、実践によって、より密接に世代の区別なく被災地の行事を盛り上げ、現地の人々と関わっていききたいです。



理学部3年  
秋山 健太

震災発生当時京都にいた、いわゆる「被災をしていない」者として東北でできることをやろうと思って活動しています。活動を通して人々のあたたかさや自分の未熟さを知れるのがボランティアの醍醐味だと思っています。



工学部3年  
谷本 祐太

私はこれまでボランティアというものに多少の興味はあったものの、大きく関わったことはありませんでした。大学生になって初めてボランティア活動に取り組みますが、様々な課題を抱える地域において今自分ができることを精一杯やっていきたいと思っています。



経済学部4年  
交換留学生  
劉 柔逸(いつみ)

東北大で留学している間、東北の方々と多くふれあい、震災復興に力を入れたいです。仮設に住んでいる方々が未だにおられ、特に一人暮らしのおばあちゃんが多いため、清掃活動を行いながら、傾聴ボランティアもしたいです。



教育学部2年  
清水谷 苑実

お茶っこや足湯、清掃、伝統行事への参加など、ニーズに合わせた活動を通して、住民の方々と一緒に楽しい時間を創りたい、被災地を盛り上げるお手伝いをしたいと考えています！



経済学部3年  
石田 昂誠

私自身、インターンシップの関係で、昨年はなかなか支援室の活動に参加出来ませんでした。今年はこのインターンの経験を支援室での活動に活かしていければと思います。よろしくお願ひ致します。



工学部3年  
和田 祐奈

岩手県陸前高田市を中心に、仮設住宅の支援をさせていただいています。経年により仮設住宅の縮小・廃止が予定されている現在、変化するコミュニティや人間関係に対応するお手伝いをさせていただければと考えています。



法学部4年  
石井 雄太郎

震災から5年が経ち、被災地での活動も多岐に渡っています。東北や卒業後の進路に活かしていけるように、僕は情報発信や東北の課題に取り組んでいる人の現場を見たいと思っています。SCRUMのメンバーとぜひ一緒に活動してみませんか！



工学部4年  
小林 大一郎

主に岩手県陸前高田市での派遣に1年生の頃から関わっています。もっともっと地域に根付いた活動をして魅力を発掘していきたいです！

# 岩手県

東北大学では2012年より、陸前高田市で学生ボランティア活動を展開しています。主に「陸前高田応援サークルぽかぽか」というサークルで取り組んでいます。ここでは、陸前高田市の状況と、そこの「ぽかぽか」の活動を取り上げます。

## 陸前高田市の被災状況

陸前高田市の市役所や商業施設が集積していた平野が13mから17m以上の津波に襲われ、1,757名の方が亡くなり、3千戸以上の家屋が被災しました(2014年6月陸前高田市発表)。

避難場所に指定されていた市民体育館(写真左)や市民会館が全壊。避難していた市民の多くが亡くなりました。また市役所の浸水により、一時的に行政機能が停止状態となりました。

また広田湾沿いには約7万本の松林が2km続く、日本百景にも指定されていた景勝地「高田松原」がありましたが、ほとんどが津波でなぎ倒されました。その中で、一本だけ倒れずに残ったのが「奇跡の一本松」(写真右)です。



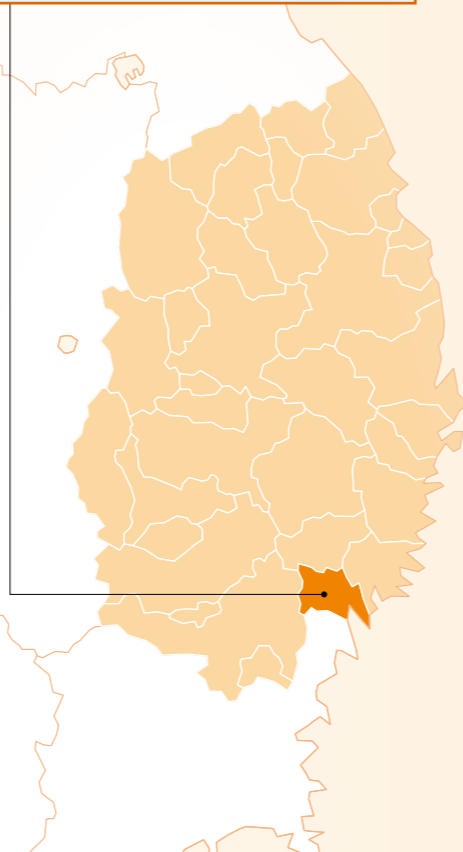
## 復興の現状

陸前高田市には2,168戸の仮設住宅が建設され、現在も津波で家を失った方の多くがそこで生活しています。災害復興公営住宅は2014年秋から2016年にかけて約1,000戸が入居可能になります(一部、入居済)。陸前高田市では最大12メートル、平均で10メートル超という膨大なかさ上げが行われています。約300ヘクタールに上る土地区画整理事業は被災地最大規模で、住宅再建にはまだ時間がかかります。一部の方々は、2019(平成31)年まで仮設住宅で生活しなければならない見込みです。



死者数(震災関連死含む)	5,132名
行方不明者数	1,124名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	26,168戸

岩手県総務部総合防災室 平成 28年2月29日現在



## 東北大学生の取り組み

東北大学の「ぽかぽか」では2016年3月までに計34回の「陸前高田ボランティアツアー」を実施し、以下のような活動を行ってきました。

### 仮設住宅・復興住宅での活動

「ぽかぽか」は主に仮設・復興住宅で活動しています。震災から5年がたった今でも仮設住宅での生活を余儀なくされ、入居当初からの友人顔見知りがかんたん去って孤立化してしまう住民が少なからずいる状況です。また復興公営住宅に新しく入居した住民の方で、新生活に馴染めず苦しむ方も多くいます。こうした状況を踏まえ、手芸、足湯のボランティアを通して震災当時の辛い記憶をお話してもらって、少しでも楽になってもらい、さらに住民の間につながりを生むことで孤立を防ぐことを目的に活動しています。



### ひとを繋ぐ伝統行事

準備や練習のために年齢性別を問わず多くの住民の方々が集まり、コミュニティ形成に大きな役割を果たしているのが「動く七夕・けんか七夕」「とらまい」等の陸前高田市の伝統行事です。「動く七夕」は飾り付けた山車を地域の方々が引っ張り、太鼓と笛のお囃子を響かせながら町内を練り歩きます。12台あった山車は9台が流され、無傷だったのはたった1台でした。全国からの支援によって、昨年は11台での開催となりました。他の伝統行事も、震災後は、人口減少・高齢化・資金・場所等の様々な問題により開催が危ぶまれています。存続のためにはボランティアの力が不可欠です。「ぽかぽか」は、とらまいでは虎や踊り子、七夕では山車の引手として高田町和野地区の活動に参加し、お手伝いしています。



### ぽかぽかメンバーの声



2015年の春に初めてボランティアに参加し、その後はぽかぽかのメンバーとして月に1度、陸前高田を訪れています。実際の声を聴くことで、テレビや新聞の情報だけでは見えてこない課題に気づくことが出来ました。瓦礫撤去など体を動かす活動をボランティアだと思っていましたが、遊びに行く・お土産を買う・話を聞く・子供と遊ぶ・被災地の情報を発信する、といった一見小さなことも被災地の役に立つことを学びました。

ボランティアだからといって「何かしなくてはならない」と気負うことはありません。住民の方と交流する時間は楽しく、優しい方ばかりで逆に元気をもらうことも多いです。学部学年問わず、ボランティアが初めてという方も是非気軽に参加して下さい。皆さんの力で魅力的な町「陸前高田」を盛り上げていきましょう!(教育学部2年 清水谷苑実)

東北大学生の陸前高田市での活動は、陸前高田応援サークル「ぽかぽか」のブログ等でも発信中!  
Twitter : Pocapoka (Poca\_2) Facebook : <https://www.facebook.com/tohoku.poca2/>  
ブログ : <http://ameblo.jp/poca-2/> E-mail: [tohoku.poca2@gmail.com](mailto:tohoku.poca2@gmail.com)

# 宮城県

死者数(震災関連死含む)	10,550名
行方不明者数	1,238名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	238,128戸

宮城県震災復興政策課 平成28年2月29日現在

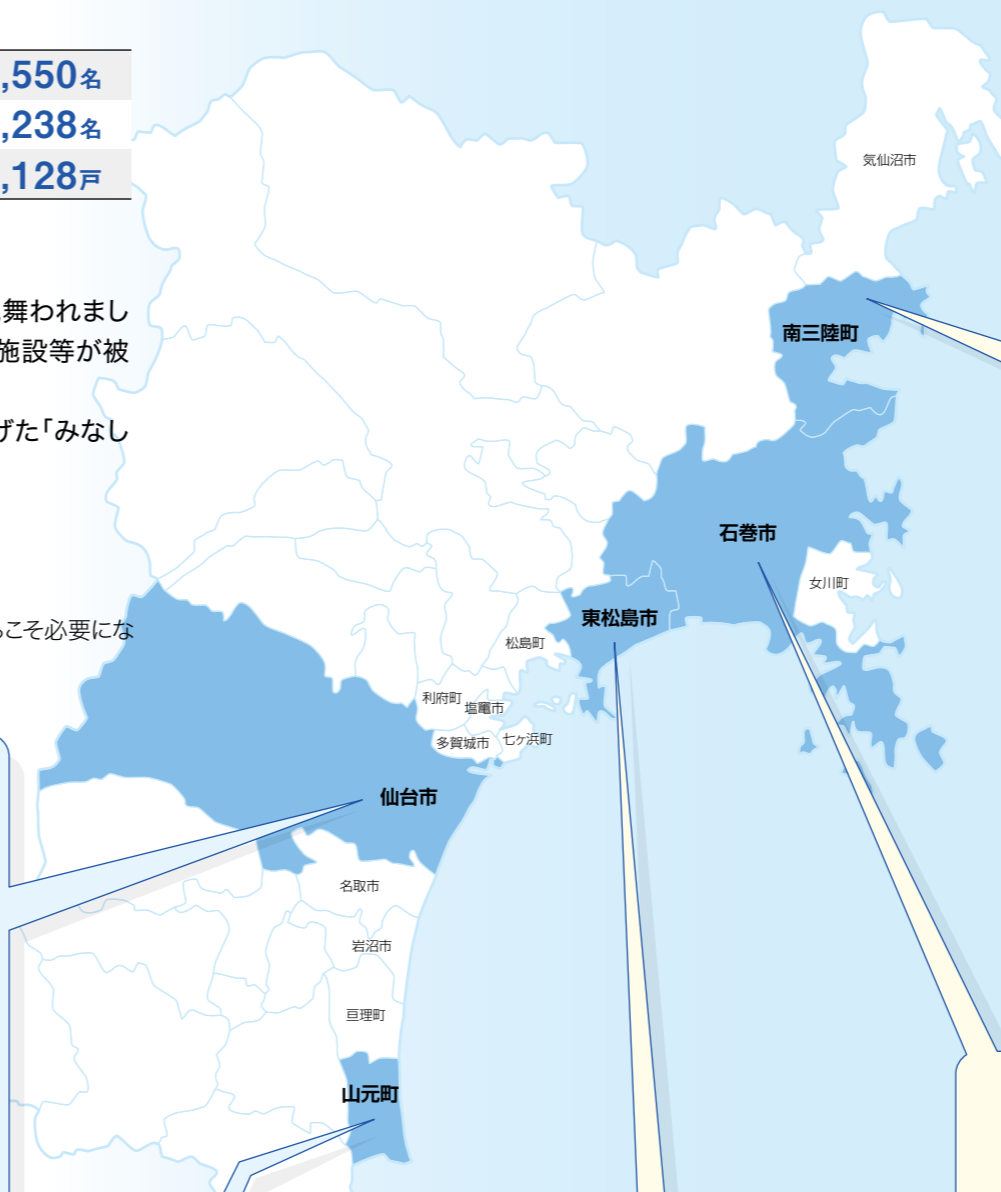
豊かな漁港と農地を有する宮城県。

震災時、北部では20メートルを超える津波が押し寄せ、南三陸町、女川町などの市街地は壊滅的な被害に見舞われました。県南の平野部では、仙台東部道路・常磐自動車道・国道6号線沿いまで津波が押し寄せ、広大な農地・港湾施設等が被害を受けました。

宮城県では現在でも23,132名が応急仮設住宅(入居率50.1%)で、20,327名が民間アパート等を借り上げた「みなし仮設住宅」で生活しています(宮城県発表、平成28年2月29日現在)。

## 復興とボランティア 5年間のあゆみ

震災から5年、大学生によりあるいは社会人により様々なボランティア活動が行われました。役割を終えた活動もあれば、今だからこその必要になる活動もあります。宮城県内で東北大学生ボランティアが活動した地域をいくつかとりあげ、そこの活動を紹介します。



### 仙台市



2013年2月 若林区でのReRootsの活動

大津波では仙台市の農地の40%が冠水。行政とボランティアの力により瓦礫撤去と農地再生が行われました。震災から5年経ち、農業を再開できる状態になったものの、人口流出による過疎化、高齢化といった問題に直面しています。そのために、現在の若林区には、住民の安定した生活、問題解決へ向けた話し合いが必要となります。

震災復興・地域支援サークルReRootsは2011年より仙台市若林区で農地の瓦礫撤去に着手。現在は野菜栽培、農家の方が作ったお野菜の直売所の運営、地域外から人を呼び込むイベントの企画、地域の話し合いの場への参加など、多方面から復興に向けた活動を行っております。三本塚市民農園の運営も行い、市民が畑や農業に触れる機会を作ったり、ひまわりやおいもの育成や収穫を一

緒に行うツーリズムを開催したりすることにより、農村の魅力を発信しています。また、被災地の稲わらを使った、藁アート展示も行いました。3万人の方が訪れる大盛況でした。2016年も再び制作します。

仙台市内では「アスイク」や「キッズドア」など様々な団体が学習支援を行っています。被災で勉強が遅れてしまったことがきっかけでしたが、現在は貧困など様々な理由で支援が必要な子どもたちを支えています。

### 山元町



2015年10月 山元町でハロウィン企画

山元町は宮城県の県南に位置し、イチゴやほっき貝などが名産となっています。東日本大震災では約2,500世帯が水没し、イチゴ農家なども甚大な被害を受けました。山元町には、東北大学地域復興プロジェクト「HARU」が、まだ大学が再開していない4月の間、1日あたり約40名(延べ1,000名)のボランティアを山元町に派遣し、炊き出しや民家の泥かき、避難所の手伝いなどを行いました。その後、2015年までは仮設住宅での足湯の活動を行っていましたが、活動してきた仮設住宅が閉鎖されるとのことで、最後には記念品として写真立てをつくる活動を行い終了しました。また新たに完成した災害公営住宅での活動として、自治会主催の夏祭りやクリスマス会のお手伝い、ハロウィンのイベントを行いました。

### 東松島市

東松島市では農地を含む広い範囲が津波の被害を受けました。高台への移転によって復興を進めています。移転先が完成した場所もありますが、大きな被害を受けた野蒜地区の北部丘陵では、造成完成(一部)は2016(平成28)年度の予定です。

学内団体の「みまもり隊」は2011年から東松島の農家の支援に着手、現在では活動のメインは、地元の方々と共に行う「東松島地野菜プロジェクト」です。東松島ならではの野菜を生み出すことで、人が戻ってこられる場所を作ろうとしています。他には、地域のお祭りに出店させていただいたり、イベントのお手伝いを通して地元の方と関わり、ともに楽しみながら活動しています。



2014年8月、トマトの収穫を手伝うみまもり隊の活動

### 南三陸町

壊滅的な被害を受けた志津川地区にある防災庁舎、震災遺構として保存するかどうか議論されていましたが、宮城県が管理して残す方針となりました。東北大学の団体では「All4Tohoku」が小学生向けのフットサル大会を開催しています。また、「復興応援団」は地元の農業・漁業を応援するツアーを開催。東京などからリピーターを多数呼び込み、地域の課題と魅力を伝えています。



保存が決まった南三陸町防災庁舎(2014年2月撮影)

### 石巻市での活動

石巻市は沿岸部に位置する、水産業やマンガの街として知られています。震災では市内の約13%が浸水し、基礎自治体の中では最も大きな被害を受けた地

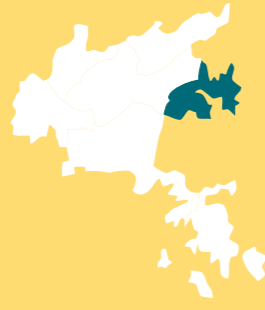


2016年2月 石巻市大橋仮設住宅のみなさんとHARUメンバー

域のため、5年経った現在でも多くの方が仮設住宅での生活を強いられています。東北大学地域復興プロジェクト「HARU」は、仮設住宅での子どもたちの学習支援や遊び場を提供する教育支援活動を行ってきました。2015年夏からはこの活動を発展させて、石巻市の自立を後押しする目的で「石巻あそびくプロジェクト」を発足しこれまでの仮設住宅での活動に加えて、市街地を歩き、住民の方とお話しすることで外からみた石巻の魅力を発見し、自立に生かすために何が出来るかを探索する活動を行っています。

また石巻市では「TEDIC」が学習支援事業、不登校状態にある子どもたちに対するのフリースクール事業等を行っています。また「ピースポートセンターいしのまき」では、石巻市の牡鹿半島等で、一週間漁師さんのお宅にホームステイ(または漁村の地域施設に宿泊)しながら漁業のお手伝いをする漁村留学「イマ、ココプロジェクト。」に取り組んでいます。

# 石巻市 雄勝町



死者数(震災関連死含む)	236名
震災前人口(概数)	4,300名
り災数(全壊・半、概数)	1400 / 1637世帯

SCRUMは、宮城県内では「雄勝部門」(愛称:インクストーンズ)として、主に石巻市雄勝町で活動してきました。ここでは、石巻市雄勝町の現状と、そこでの活動をご紹介します。

## 特徴

国内シェア一位をほこる雄勝硯と、ホタテを中心とした漁業で有名な地域です。市町村合併により、2005年から、石巻市の一部となりました。  
震災前の高齢化率は40%を超えており、漁業や硯産業を引退後、余生を過ごす高齢者が中心となっていました。



## 被害状況

震災前からあった過疎化の問題に、津波被害が追い打ちをかけました。  
被害の甚大さにくわえて、避難所環境の劣悪さ、仮設住宅の不足などもあり、雄勝町外へ避難する住民が多数にのぼりました。



## 残った方の問題、離れた方の問題

雄勝町の人口は、復興事業の問題などもあって、1300人(震災前の3割前後)までしか戻らないといわれています。2015年度にはようやく住宅も完成しましたが、現在、以下のような問題が生じています。

### 1 雄勝町に残った方は…

震災前と同じかたちで生活を再開するのは難しく、伝統の継承(雄勝法印神楽など)や、学校の存続、買い物の問題などが生じています。そのなかで、いかに人口減少に対応したまちづくりをするかが課題となっています。

### 2 雄勝町を離れた方は…

雄勝町を離れ、どのような形で生活を再開するかが課題となっています。また多くの方が希望する二子団地(石巻市河北町)は、平成29年度の完成予定となっており、ながびく仮設生活をいかに乗り切るかも課題です。

## 被災地の声



「(雄勝町の)雄勝地区では、9割の住民が出ていった。住民とまちの関係を「水の入ったコップ」に例えると、震災によってコップが壊れ、中の水が出ていったとき、行政はコップの再建しか考えていない。被災者の復興を本当に考えるなら、こぼれた水を見る必要がある」(20代・男性・雄勝地区)



「とにかく波板から動いていかないと」という気構え。反発を食らっても、何もやらないと全てなくなってしまう。ならば、何かして自分たちの意志を次いでくれる人が現れればよい」(60代・男性・波板地区)



「これまでの4年半は長かった。住むところが確定してからの方が気が重い。あと3年かーという感じ。東松島はもう引き渡し。3年のひらきはなぜ?」(60代・男性・仮設飯野川校団地)

## 雄勝部門(インクストーンズ)の取り組み

### 仮設住宅の支援

石巻市河北町の仮設住宅(雄勝町で被災された方が多く住む)において、主に清掃活動を行っています。仮設住宅は、完成から長い年月が経っており、清掃が必要な箇所も多くあります。そこで清掃ボランティアでは、住民の方が普段はあまり掃除することのない部分を重点的に清掃します。  
清掃を困難とする住民の方の支援をするともに、清掃中のコミュニケーションを通じて、住民の方の声をお聞きすることも、このボランティアの大きな目的です。



### 林業ボランティア

壊滅的な被害を受けた雄勝町中心部で、雇用創出を目的として、林業を始めた「雄勝里山プロジェクト」のお手伝いをしています。林業と聞くとすでに廃れた産業というイメージを持たれがちですが、木の端材をバイオマス燃料として利用できることなどから今再注目されている産業です。そんな林業に関する学習を行ったり伐木体験をしたりするツアーを組むことで、林業に関わる機会を学生に提供しています。  
昨年11月に行われたツアーには、留学生や他大学の学生も参加してくださり、雄勝町の林業を広めるだけでなく幅広い学生交流の場ともなりました。



### 限界集落の支援

波板地区は、雄勝町のなかでも特に小さい集落です。震災の影響で4世帯にまで減り、集団移転が完了しても計10世帯にしかなりません。しかし波板には住民、玄昌石、海や山など、そこにしかない魅力があります。私たちは、そのような魅力を発信しながら「交流人口を増やしたい」という住民の意志のもと活動しています。波板を訪れば必ず素敵な出会いがあります。みなさんも私たちと一緒に波板に行ってみませんか?



### メンバーの声

私は昨年11月に初めて雄勝でのボランティア活動に参加しました。ボランティアに参加してみて、やはり考えるのと、実際に肌で感じるのは違うことがわかりました。また、ボランティアは誰かの為に行動するだけでなく、自分自身の為の貴重な経験となります。  
雄勝というと、硯が有名ですが、それ以外にも帆立や祭り、様々な魅力があります。そして震災から5年経った今だからこそ必要な支援があります。雄勝部門のボランティアへ、是非参加してみてください。(医学部保健学科2年 渡会紘子)



死者数(震災関連死含む)	3,865名
行方不明者数	3名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	94,208戸

福島県災害対策本部 平成 28年3月28日現在。  
本文中の関連死者数、避難者数も同資料に拠る

## 原発事故の影響

福島県は、東日本大震災時、地震、津波により甚大な被害を受けたほか、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射線汚染により未曾有の被害を受けました。第一原発の周辺地域は現在も避難区域に指定され、97,333人が、震災から5年経った今でも避難生活を余儀なくされています(平成28年3月28日福島県災害対策本部発表資料)。また、福島県全体の震災関連死(震災の直接的被害ではなく疲労や環境悪化などの間接的な原因で死亡する)の死者数は2,037人にのぼり、他県と比較しても突出して多くなっています(平成28年3月28日福島県災害対策本部発表資料)。長引く避難生活のストレスが起因しているためと考えられます。

川内村、楡葉町のように、一部避難指示が解除され帰還が始まった地域もありますが、これもインフラ整備や若い世代の不在、住民間の意識の差など様々な問題があり、一概に良かったと喜ぶことはできない現状があります。震災から5年経った今、福島の抱える問題は、ますます多様な姿を見せています。

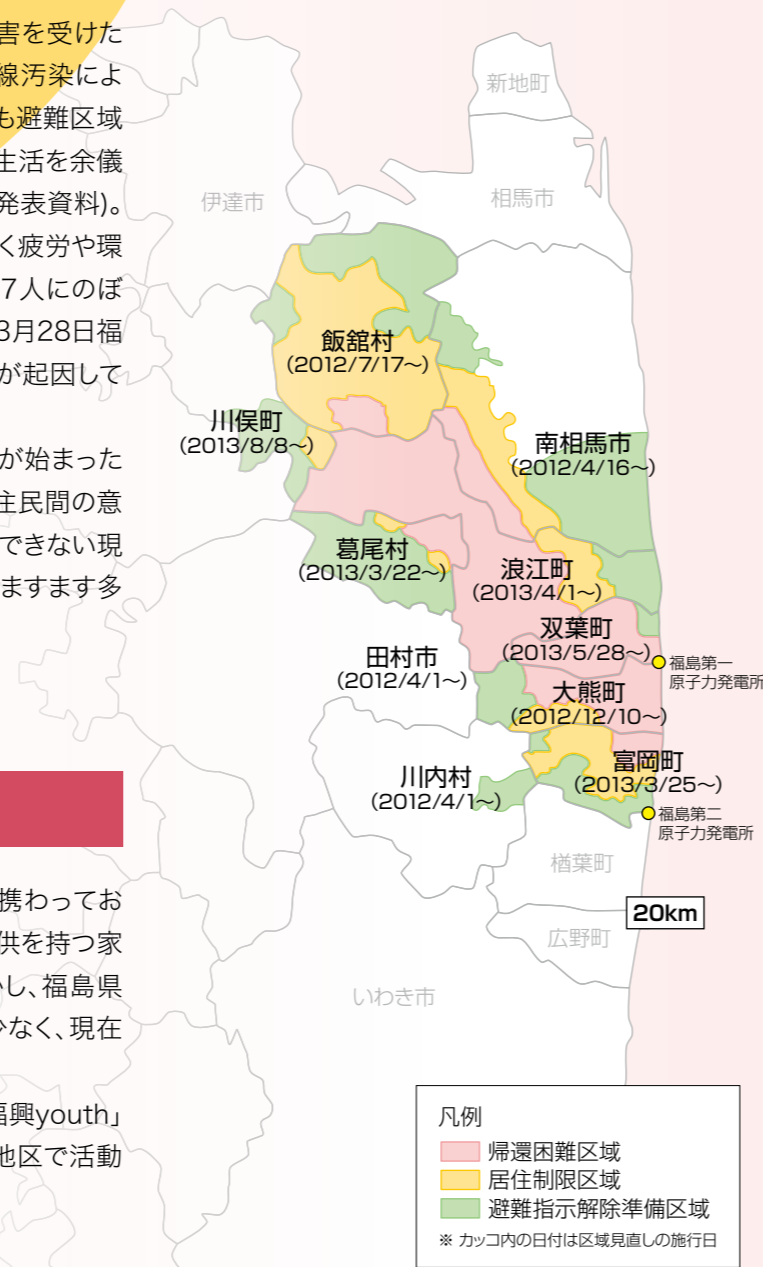
## 支援の取り組み

震災以降、福島県でも多くの方が被災した方の支援に携わっており、復旧活動の手伝いや、仮設住宅での生活のサポート、子供を持つ家庭のための子育て・学習支援などが行われてきました。しかし、福島県で活動するボランティアの数は宮城県や岩手県に比べて少なく、現在も多くの支援を必要としています。

SCRUMでは、2013年から取り組みをはじめ、現在は「福興youth」というグループで、主にいわき市の泉玉露仮設住宅と薄磯地区で活動を行っています。

## 避難指示区域の概念図

平成27年9月5日現在(経済産業省発表)



原子力災害対策特別措置法に基づき、避難指示が出ている区域が「避難指示区域」です。現在、避難指示区域は「帰宅困難区域」(年間積算線量50mSv以上)・「居住制限区域」(年間積算線量20~50mSv)・「避難指示解除準備区域」の3つに分けられています。



福島県双葉郡富岡町、美しい桜並木で有名な夜ノ森地区のすぐ近くの「帰宅困難区域」のフェンス。(2015年4月)



いわき市薄磯地区。土地区画整理事業により高台・嵩上げ地が造成されている。果たしてそこに何世帯が再建するか?(2016年2月)

## 東北大学福興youthの取り組み

### 泉玉露での活動

いわき市にある泉玉露仮設住宅には、福島県双葉郡富岡町から避難してきた方々がお住まいです。「富岡3・11を語る会」という語り部の団体があり、美しい桜並木で有名だった富岡町の震災前の姿と被害の記憶を後世につないでいます。また富岡町からいわき市へ引っ越された方々の交流の場として、「泉玉露交流サロン」という施設があります。

私たちは、仮設住宅の集会所で開かれているカフェに参加し、また一軒ずつお宅を回って部屋の掃除をする清掃ボランティアをしています。「交流サロン」では去年の夏に流しそうめんのイベントを企画しました。



いわき市内の泉玉露仮設住宅でのもちつき(2016年1月)

### 福島についての読書会・学習会

「〇〇町の避難指示が解除になり、帰還ははじまりました」「福島県沖で実施されている試験操業の海域が拡大されました」「災害公営住宅が完成し、入居を待ち望んでいた住民たちが続々と……」などの「明るい」ニュースが流れるようになった昨今、私たちが考えるべきことは、それは本当に喜ばしいことなのか、ということではないでしょうか。震災から5年、福島の問題は、複雑化・多様化を見せています。

ボランティア活動をする上でも、そうした複雑さへの理解は欠かせません。そのため、東北大学内で読書会や学習会を行っています。読書会だけでも参加できますので、お気軽にご参加下さい。



東京電力のお話を聞いた後にディスカッション(2015年9月)

### 薄磯地区での活動

薄磯地区はいわき市の南東部の海岸に位置する地域です。東日本大震災による津波被害を大きく受け、薄磯地区だけでいわき市の死者数の約1/3の方が命を落としました。薄磯地区では復興協議会を設立し、復興に向けて歩んでいます。

私たちは地区内の復興公営住宅の集会所で足湯・手芸・カフェ活動などをさせてもらい、地域住民の方と交流しています。薄磯地区で活動している立教大学の学生や、NPOとの交流も行いました。これからもこういった活動に加え、地域の行事への参加などで、薄磯の復興に協力していきたいと思っています。



薄磯団地にて。切り絵で住民の方々と交流(2015年6月)

### スタディツアー・福島大学との交流

2013年度より1年に1度のペースで留学生向けのツアーを実施し、2015年6月も「留学生と共に行く福島スタディツアー」を実施、23人が参加しました。果樹園やエネルギー施設を訪れた他、福島市内の小学校で給食に使われる食材のモニタリングの様子を見学し、その後小学生と一緒に給食を食べました。

また、12月には「福島大学災害ボランティアセンター」と合同で福島市内の仮設住宅で清掃ボランティアを実施しました。活動終了後の交流会ではそれぞれの団体の活動報告を行い、ボランティアのあり方などについて意見交換を行いました。



福島大学とともに仮設住宅の集会所を大清掃(2015年12月)

学生

ボランティア団体の紹介

8団体

※掲載はアイウエオ順です

東日本大震災に関連した活動を行っている、東北大学生による学生ボランティア団体を紹介します。活動に参加してみたい団体があれば、4月のスタートアップフェア等で詳しく話を聞いてみましょう！

1 As One

代表: 高田 俊智(理学部3年)

私たちAs Oneは1.東北支援 2.海外支援 3.居場所作りを活動理念に約20名のメンバーで活動しています。活動としては、週一のミーティングで貧困問題の勉強会などを行っています。ほかに宮城県石巻や女川、岩手県の大船渡などでイベントのお手伝いなどの活動を行い、長期休暇には主に東南アジアにチームを派遣して住居貧困問題解決のため、家の建築のボランティアを行っています。



E-mail:tohoku.asone2013@gmail.com  
Twitter,Facebookは「東北大学国際ボランティアサークル As One」で検索!

2 東北学生震災復興支援団体 All for Tohoku

私たちA4Tは宮城県南三陸町の小学生を対象とした、フットサルやお鍋作り等のイベントを、震災以降全9回開催してきました。細く長く“子どものあそび場”をつくる活動を継続してきました。また他大学や支援企業、南三陸町民の方々など様々な繋がりができ、人のあたたかさに触れることで、間もなく5年経とうとしている震災や支援活動について改めて考えるきっかけになっています。東北の未来を担う子どもたちと一緒に寄り添って成長を見守る新しいメンバーを募集しています。



E-mail:all4tohoku@gmail.com URL:http://a4t.lolipop.jp/outline  
Facebook:https://www.facebook.com/allfortohoku

3 東北大学 インクストーンズ

代表: 名古屋 円花(文学部3年)

東北大学インクストーンズが活動している石巻市雄勝町は、大きな津波被害を受けた地域です。私たちは雄勝町内の林業支援、限界集落の運営支援、仮設住宅でのコミュニティ支援を中心に活動しています。「インクストーンズ」という名前は雄勝の名産品「硯」の英訳をもとに、地域に密着しながら雄勝を応援していこうという思いのもとつけられました。雄勝町は大きな被害を受け様々な問題を抱えていますが、それと同時にたくさんの魅力があります。



E-mail:aiiro.999@gmail.com TEL:090-6211-5292 URL:https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/

4 東北大学地域復興プロジェクト "HARU"

代表: 小濱 奈月(工学部化学バイオ工学科4年)

HARUは東北の復興支援を目的とし結成された、東北大学公認の団体です。現在は石巻市の子供たちの居場所づくり、住民の方と交流を深める、石巻あそびプロジェクトの活動を行っています。この春には、石巻市仮設住宅での足湯カフェ活動、料理教室、教員志望者向けの石巻スタディーツアーなどの活動を行いました。これからも地域の状況に合わせて、仮設住宅や復興公営住宅、町おこしのイベントなどでお手伝いを模索し、活動していく予定です。被災地に行ったことのない方、イベントの企画などに興味のある方、気軽にお問い合わせください。メンバー一同お待ちしております!



E-mail:koho@haru-tohoku.org URL:http://www.harutohoku.org/ BLOG:http://tohokugakuseifukko.blogspot.jp/

5 東北大学 福興youth

代表: 中澤 恵(教育学部2年)

東北大学福興youthは、東日本大震災からの復興の長期化が懸念される福島県において、仮設住宅でのコミュニティづくりや被災者一人一人の心のケアなどを目的に活動を行っています。現在は、津波により大きな被害を受けたいわき市平薄磯地区や、原発事故の影響で富岡町から避難されている方が暮らす同市泉玉露仮設住宅にて足湯や手芸などの活動を行い、ボランティアツアーという形で一般学生を被災地に呼び込んでいます。



E-mail:n.megumi1030@gmail.com TEL:090-4555-7730 URL:https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/ Twitter:@fukko\_youth

6 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか

代表: 今本 亘(文学部2年)

岩手県陸前高田市でボランティア活動を行っています。一般学生を交えたボランティアツアーも実施しています。仮設住宅・復興住宅での足湯・手芸の活動と、被災で居場所を失った子どもたちの学習と遊びの支援がメインですが、地域の要望に応じて、陸前高田市の伝統行事、8月の「動く七夕」や正月の「とらまい」のお手伝い、まちづくりワークショップの実施等も行います。月に1度は現地で活動します。自分のペースで参加できるので、ぜひ一度、ご参加下さい!



E-mail:tohoku.poca2@gmail.com BLOG:http://ameblo.jp/poca-2/ Facebook:https://www.facebook.com/tohoku.poca2/ Twitter:@Poca\_2

7 学生による地域支援活動団体 みまもり隊

代表: 菅 京子(農学部3年)

2011年6月、震災復興の団体として結成されました。私たちは震災で津波の被害を受けた宮城県東松島市を元気あふれるまちにすることを目的に活動しています。活動のメインは、地元の方々と共に「東松島地野菜プロジェクト」です。東松島ならではの野菜を生み出すことで、人が戻ってこられる場所を作ろうとしています。他には、地域のお祭りに出店させていただいたり、イベントのお手伝いを通して地元の方と関わり、ともに楽しみながら活動しています。



E-mail:mimamori.311@gmail.com URL:http://mimamori311.wix.com/mimamoritai  
Facebook:https://www.facebook.com/mimamori.tai Twitter:@mimamori\_tai



## 8 震災復興・地域支援サークル ReRoots

代表: 浦郷 宣秀 (農学部2年)



ReRootsの拠点は津波被害を受けた仙台沿岸部の農村地帯、若林区。「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに、仙台市6大学の学生が地域に根差して長期的に活動しています!被災した農家さんの野菜の移動販売、若林区の稲わらで巨大マンモスを製作展示し3万人を呼び込みこだわらアートなどその先を見据えた継続的な活動を農家さんの立場に立つことを意識して行っています。ぜひ一緒に活動しましょう!最新情報はTwitterで!



E-mail: [reroots311@yahoo.co.jp](mailto:reroots311@yahoo.co.jp) TEL:022-762-8211 URL:<http://reroots.nomaki.jp> Blog:<http://reroots.blog.shinobi.jp/>  
Facebook:<https://ja-jp.facebook.com/ReRoots311> Twitter:[@reroots\\_newface](https://twitter.com/reroots_newface)

## 3 特定非営利活動法人 good!

代表: 磯田 浩司

good!は、電気・ガス・水道のないスリランカの村で井戸掘りや幼稚園建設、北タイ山岳少数民族の村の高床式の家でホームステイしながら、道路作り、国内での農業のお手伝い、といった滞在型ボランティア活動、「ワークキャンプ」を通じて、若者たちのきっかけ作りを応援しているNPO団体です。個性豊かなスタッフがそれぞれのプログラムに引率として同行しますので、初ボランティア、初海外の方でも安心して参加していただけます。新しい自分と出会える!一生モノの仲間が出来る!詳しくは「グッドキャンプ」で検索!



TEL:03-3973-1631 URL:<http://www.good.or.jp/>  
住所:〒173-0034 東京都板橋区幸町40-1

# 学外 のボランティア団体の紹介

11団体

※掲載はアイウエオ順です

東北大学生のボランティアが活動している学外団体を紹介します。  
こちらにも参加したい活動があれば、4月のスタートアップフェア等で詳しく話を聞いてみましょう。

## 1 特定非営利活動法人 アスイク

代表理事: 大橋 雄介



アスイクでは、経済的な事情を抱えた子どもたちに寄りそってくれる学習支援ボランティアを募集しています。「学習支援」といっても、ただ勉強を教えるのではなく、学校での生活や将来などについて、子どもたちと楽しく会話することも大事にしている活動です。「週1日から、ムリなく」が原則なので、学業とも両立可。これまで500人以上の大学生や社会人たちが参加しており、ボランティア同士の交流も充実しています(交通費実費支給)。



E-mail:[info@asuiku.org](mailto:info@asuiku.org) TEL:022-781-5576  
URL:<http://asuiku.org>

## 2 特定非営利活動法人 キッズドア

理事長: 渡辺 由美子

仙台近郊の貧困家庭の中高生を対象として無料の学習講座を開講しています。大学生ボランティアを中心として1人1人の生徒に寄り添った指導を目指し日々精進しています。あわせて被災地での放課後学習会なども行っています。普段の大学生活では経験できないことを子ども達と接する中でたくさん得ることができます。学習指導以外にも各種イベントや研修会への参加など幅広く活動しています。アットホームで温かい雰囲気団体の団体です!



東北大学担当: 齋藤 悠一 (工学部2年) E-mail:[tohoku@kidsdoor.net](mailto:tohoku@kidsdoor.net) TEL:022-354-1157  
URL:<http://kidsdoor-fukko.net/>

## 5 公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

代表: 石見 沙央里

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンは、被災地の子どもたちに塾などで利用できるクーポンを提供しています。私たち学生ボランティアはクーポンを利用している子どもたちと面談をし、クーポンの使い方や学習相談などのサポートをしています。また子どもとの面談以外でも被災地域でのワークキャンプの企画や、専門家の先生による研修など学生のサポートも充実しており、約100名の学生が個性を活かして楽しく活動しています。



E-mail:[brosis@cfc.or.jp](mailto:brosis@cfc.or.jp) TEL:022-265-3461  
URL:<https://cfc.or.jp/>

## 6 特定非営利活動法人 TEDIC

代表: 門馬 優

NPO法人TEDICは、「ひとりぼっちがいけないまち、石巻、社会」をビジョンに、石巻市を中心に、子ども・若者支援を行っている団体です。宮城県内の大学生が活動の中心となって、公民館や小学校で宿題や学び直しを行う学習支援事業、登校しづらいなどの不登校状態にある子どもたちに対するフリースクール事業及び自宅訪問を行うアウトリーチ事業やその他、県内初の子どもの食堂などの事業を行って、市内の子ども・若者を支援しております。



E-mail:[k.otsu@npo-tedic.net](mailto:k.otsu@npo-tedic.net) TEL:080-8208-7452  
URL:<http://www.tedic.jp/>

## 7 特定非営利活動法人 パクト

代表: 水野 朝紀

パクトは東日本大震災を受け、地元の若者や有志により結成された、地元・陸前高田発のNPOです。子どもの居場所づくり活動・『みちくさルーム』などの子ども支援事業の実施、ボランティア受け入れ窓口・『陸前高田市復興サポートステーション』の運営、簡易宿泊所・『二又復興交流センター』の運営を行っています。『みちくさルーム』では、小友町での活動にご参加いただけるボランティアを募集しています(月1回程度)。



E-mail: child.p@ct311.org (子ども支援専用メールアドレス) TEL: 0192-47-4977 URL: http://pact-rt311.org

## 8 ピースボートセンターいしのまき

代表: 山元 崇央

私たちは、7日間からの漁村留学「イマ、ココ プロジェクト。」を軸に石巻市で活動しています。被災地と呼ばれる石巻で、一週間漁師さんのお宅にホームステイ(または漁村の地域施設に宿泊)しながら漁業のお手伝いをするこのプロジェクトは、「支援する側⇄される側」という垣根を乗り越え、個人対個人の深い繋がりを育むことを目的としています。豊かな自然や漁業の厳しさ、浜の人のあたたかさに、ぜひ直接出会いに来てください!



E-mail: peaceboat@pbi.or.jp TEL: 0225-25-5602 URL: http://pbv.or.jp/  
Facebook: http://www.facebook.com/ima.coco.project/

## 9 ピコせんサポーター

代表: 齋藤 まゆみ

私たちは毎年、子どもがつくるまち「Piccoliせんだい」という、子どもだけでまちを作って生活するイベントを開催しています。イベントを通して、子どもたちに「人の役に立つ喜び」を感じてもらうことをテーマにしています。今年の「Piccoliせんだい」は9月開催! イベントの企画運営や子ども会議のサポート、広報活動などにかかわってくれるサポーターを募集しています。ぜひ一緒に活動しましょう!



E-mail: piccolisendai@gmail.com URL: http://picosen.webcrow.jp/ Facebook: http://www.facebook.com/piccolisendai

## 10 一般社団法人 復興応援団

代表: 佐野 哲史

私たちは、地元の人々が中心となった復興を実現することを目標に活動しています。南三陸町では漁業・農業の担い手を応援するボランティアツアーを開催しています。2015年9月には東北大生と企業の方を南三陸町に派遣しました。地元の漁師・高橋直也さんのもとで漁業に関する体験型観光プログラムの開発のお手伝いをしました。実際に漁業を体験し、客の目線でフィードバックを行うことで、よりよいプログラム開発に役立てることができ、観光客の増加に貢献できます。また南三陸の被災箇所を巡り津波の恐ろしさを学んだり、南三陸の海の幸を堪能したり、復興商店街にて観光をするなど、多角的な面から南三陸を体験することができるプログラムとなっています。この取り組みによって被災地としてだけでなく、また訪れたい場所として南三陸に関心を持ってもらい、交流人口の拡大を目指しています。そして、地元の人とお客さんが一体となった復興やまちづくりのしくみをつくることを目指しています。



TEL: 0226-25-9897 URL: http://www.fukkou-ouendan.com/

## 11 一般社団法人 ワカツク

代表理事: 渡辺 一馬

被災地や地域企業の課題解決の現場と学生を繋ぎ、学生のチャレンジを応援するのがワカツクの仕事。地域の魅力的な社会人や企業取材・発信する活動や、宮城の学生団体と連携したイベント企画などを行っています。ここで出会う大人たちは誰もが「自分たちで地域を良くしたい」という熱い志を持った人ばかり。やるからには本気を求めますが、決して一人ではありません! 皆さんの挑戦をワカツクスタッフが一緒にサポートします。「自分の成長」と「地域への貢献」どちらも譲れない! という人、学生ならではの挑戦がしたい人はワカツクまで!



E-mail: info@wakatsuku.jp TEL: 022-721-6180 URL: http://www.wakatsuku.jp  
いくする仙台WEBサイト http://igusuru.com 住所: 宮城県仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル3F

## テーマ別 ボランティア団体一覧

活動内容で団体を分類。やりたいボランティア活動の種類で自分に合った団体を探してみよう!

テーマ	テーマに近い団体
子どもや若者の支援	All for Tohoku, HARU, ぽかぽか, アスイク, キッズドア, こども☆ひかりプロジェクト, チャンス・フォー・チルドレン, TEDIC, パクト, ピコせんサポーター
仮設住宅、復興住宅の支援 (傾聴、清掃、住民交流の促進など)	インクストーンズ, 福興youth, HARU, ぽかぽか
国際交流、海外支援	As One, good!
伝統行事の支援(祭りなど)	インクストーンズ, ぽかぽか
イベント運営・支援	All for Tohoku, As One, こども☆ひかりプロジェクト, ピコせんサポーター
産業(農林漁業)の支援	インクストーンズ, みまもり隊, ReRoots, ピースボートセンターいしのまき, 復興応援団
観光振興、地域づくり	インクストーンズ, みまもり隊, ReRoots, 復興応援団
ボランティアのマッチング	パクト, ワカツク, SCRUM

どの団体に参加するか迷ったときは……、

やりたいボランティア活動の種類で自分に合った団体を探してみよう!

### 「学生ボランティア・スタートアップフェア」

(4/8・11・14・20・21・26に川内北キャンパスC棟で開催。詳細は裏面)に上記の各団体が参加するので、そこでより詳しく話を聞いてみよう!

